掲載日:2020年02月21日，面名:エネルギー・市場（通常），記事ID:KIJ20200221_A1003000102100005

ニュースインタビュー

電力が採用「結果出す」

資産管理ソフト、日本で手応え

カッパーリーフ・テクノロジーズCEO
ジュディ・ヘス氏

カナダのソフトウエア会社カッパーリーフ・テクノロジーズが、日本市場で攻勢をかけている。インフラ設備のアセットマネジメント（資産管理）が強みの同社は、2019年7月に日本法人を設立して以降、インフラ企業への提案を加速。日本の電力会社から受注を獲得した。このほど来日したジュディ・ヘスCEO（最高経営責任者）は「受注実績をステップに、さらに拡販したい」と意気込む。

（聞き手＝湯川　努）

――日本法人設立からここまでの成果は。

「電力会社から受注を獲得した。日本法人の設立から半年程度で受注でき、良いスタートが切れた。今後は電力だけでなく、ガスや水道、運輸業界などにも提案する。日本での受注で拡販できる自信が持てた」

「提供するのはアセットマネジメントのソフトウエア『C55』。これは大規模な資産を長期的に管理するもので、資産の価値最大化や運用コストの低減手法を提案できる。また将来的な設備更新コストの計算、二酸化炭素（CO2）排出抑制を意識した経営戦略も立てられる」

実績で評価

――受注できた要因は。

「C55の特長を理解してもらえたほか、海外の導入実績を高く評価して頂いた。米大手電力のデュークエナジーなども採用しているが、導入企業は途中でキャンセルすることなく継続利用している。さらに、ある企業は1部門への導入後、全社に水平展開した。業種によって成果は異なるが、運用コストが半分になるケースもあり、C55の有効性が広まっている」

――日本のインフラ企業のアセットマネジメント意識を他国と比較して。

「日本は重要性を認知し、今まさに各社がソフトウエアを試行している段階だ。先行する米国やカナダ、英国などの企業に日本企業がヒアリングしているようだ。営業で訪問すると、資産の価値がどうすれば高まるのか、検討している様子がうかがえる」

――日本事業の今後の展開は。

「C55を提案するとともに、C55を導入する企業で結果を出す。納入先では現在、ソフトウエア適用に向けて準備を進めている。20年中には本格的に運用開始する見通しだ。結果を出せれば、おのずと普及に弾みがつく。日本企業は、他国に比べてアセットマネジメントに求める水準が高いが、しっかりニーズに応えていきたい」

世界展開も

――日本以外にも世界で拠点を設立している。現状の手応えは。

「アジアやオセアニア、欧州に進出している。19年はニュージーランドやドイツで受注した。今後は中東でアセットマネジメントの意識が高まると期待している。各地には事業拠点を置き、コンサルスタッフも配置している。導入だけでなく、長く利用するためのアドバイスもできる」

メモ

ジュディ・ヘス氏はシステム開発会社などでキャリアを積み重ね、10年にカッパーリーフCEOとして入社。現在は営業面に加え、技術開発にも力を入れており、ソフトウエアの価値を高めるため、マシンラーニング技術の高度化を進めている。カナダ出身、62歳。

(C)電気新聞